

議会からのたより



発行：遠別町議会 編集：議会報発行特別委員会

議会の主な動き

(令和2年2月～令和2年4月)

- 2月3日
令和元年度市町村長と議会議長との意見交換会出席のため議長初山別村に出張
- 2月10日
高橋はるみ参議院議員近況報告会出席のため議長留萌市に出張
- 2月13日～2月14日
北海道町村議会議員公務災害補償等組合議会定例会及び北海道町村議長会理事会出席のため議長札幌市に出張
- 2月17日
第1回議会全員協議会開催
- 2月19日
第1回議会運営委員会開催
- 2月25日～2月27日
北海道後期高齢者医療広域連合議会定例会及び全国過疎地域自立促進連盟北海道支部役員会出席のため議長札幌市に出張
- 3月2日
留萌管内町村議会議長会臨時総会出席のため議長羽幌町に出張
- 3月26日
第3回議会報発行特別委員会開催
- 4月7日
第4回議会報発行特別委員会開催
- 4月23日
第2回議会全員協議会開催
- 4月24日
第5回議会報発行特別委員会開催

第1回定例会

第1回定例会を3月5日から3月12日までの8日間を会期として開催し、定期監査報告、令和2年度町政執行方針、教育行政執行方針、各会計予算案の概要についての説明を受け、一般質問は、山本議員、白井議員、小森議員の3名が行い、令和元年度各会計補正予算、専決処分の承認・報告について審議し、原案通り可決した。また、令和2年度各会計予算については、予算審査特別委員会に付託し、本会議において承認し、会期を2日残して閉会した。

報告

- ◆令和元年度定期監査報告
- ◆専決処分の報告について
(工事請負契約の変更)
- ◆公営住宅建設工事(建築主体工事)

主な審議事項

- ◆使用料等の見直しに伴う関係条例の整備について
- ◆第2号会計年度任用職員の給与に関する条例の一部改正について
- ◆長期継続契約を締結することができる契約を定める条例の制定について
- ◆移住交流支援センター設置及び管理に関する条例の一部改正について
- ◆移住定住促進住宅条例の一部改正について
- ◆特定公共賃貸住宅管理等に関する条例の一部改正について
- ◆デマンドバス運行条例の制定について
- ◆敬老年金支給に関する条例の一部改正について
- ◆公園条例の一部改正について
- ◆新規就農者誘致特別措置条例の廃止について

主な補正予算

- ◆新規就農者経営発展支援に関する条例の制定について
- ◆公営住宅設置管理等に関する条例の制定について
- ◆簡易水道給水条例の一部改正について

決議案

- ◆「民族共生の未来を切り開く」決議について
提出者 小森嘉孝議員
賛成者 柏谷美春議員
山本仁美議員
- 【一般会計】
・林業専用道(規格相当)作設工事 5,070万円新規
・公営住宅建設工事 1,318万3千円減

町長からの行政報告（抜粋）



プレミアム付商品券事業
及び遠別町福祉灯油等購
入助成事業について

プレミアム付商品券事業は、国からの事業の実施要請により、低所得者・子育て世帯主向けのプレミアム付商品券の販売を行いました。遠別町におきましては、昨年10月1日から本年2月末日までの間、申請を受け付けた結果、141人に販売いたしました。総販売金額は2,724千円でありました。

遠別町福祉灯油等購入助成事業については、灯油価格の高騰を踏まえ、在宅で生活する非課税者のうち、高齢者世帯やひとり親世帯等を対象に1世帯15千円の助成に取り組み、昨年の12月16日から本年2月末日までの間、申請を受け付けた結果、188世帯、2,820千円の交付決定をいたしました。

遠別農業高等学校男子寮増築に係る進捗状況について

12月から着工しております男子寮増築工事の進捗状況について、遠別農業高等学校を守る会から報告がありましたので、お知らせいたします。当初、杭打ち箇所水道管が埋設され、水道管の移設工事を行うなど、着工が遅れが生じ、年度内の完成を心配しておりましたが、年内には基礎コンクリートも打ち終わり、年明



男子寮（増築）の外観（3/10撮影）

けからは棟上げ・屋根・外壁と順調に工事が進み、3月上旬には内装工事も概ね完成する見込みであると考えております。備品についても発注済みであり、工事完成後には速やかに納入できるように準備ができておりますので、年度内に着実に完成できる状況であります。

来年度の新入生も町外から多数入学されると聞いておりますので、入寮定員の不足が解消され、適切な生徒指導と教育環境の整備が図られると考えております。

新型コロナウイルス感染症に係る防止対策について

新型コロナウイルスについて、道内において感染者が拡大し、児童生徒や学校関係者への感染も確認されたことから、北海道教育委員会より、道内小・中学校全校を対象に2月27日から3月4日までの一週間、臨時休業するよう要請がありました。

この要請を受け、本町の小・中学校について、教育委員会で臨時休業の措置をとりましたが、新たに、国から小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の春休み開始前日までの臨時休業の要請を受け、さらに、北

海道知事が「緊急事態宣言」を出したことから、本町も各学校を臨時休業とすることに決定したとの報告を受けております。また、幼児センター「きらり」についても、学童保育、子育て支援、短時間保育については、学校と同じく臨時休業とし、長時間保育については、昼食持参の希望保育のみの対応とすることとなりました。また、社会教育施設、スポーツ施設についても、町民の健康を考慮し、この期間は閉館とさせていただきます。

町民の皆さんには、ご不便をかけることとなりますが、感染防止対策について、ご理解をいただき、今後の防止対策については、庁舎内に危機対策本部を発足させましたので、感染状況を注視しながら、迅速かつ適切に対処していきたいと考えております。



町政を問う

第1回定例会「一般質問」



1 自然エネルギーによる
地域おこし

Q【山本議員】 地球温暖化防止に向け、太陽光発電や風力発電など、全国各地で様々な再生可能エネルギーの取り組みが進んでいる。本町においても環境にやさしい再生可能エネルギーを活用し、エネルギーの地産地消を図り、雇用創出と地域の活性化、地方創生に繋がるのではないかと考える。国、道、企業と連携して送電網設備と企業誘致ができたものか？町長に伺う。

A【笹川町長】 本町は風力設備を設置するための広大な面積の町有地が数少なく、大規模な事業展開ができない状況であるため、風力事業での企業連携・誘致は現時点では考えていない。また、送電網の整備は過去に民間会社において、日本海側

ルートに新設計画があったが、北海道と本州をつなぐ海底送電線である「北本連系線」の増強計画の縮小により、採算性が見通せないため計画が凍結となった経緯があり、今後の整備も困難だと考える。

しかし、北海道においては、新エネルギーの更なる導入を見据え、国の施策との整合を図り、本道での課題や効果を検証しながら、国への働きかけをはじめとする対応が必要としていることから、今後も自然エネルギー施策における、国・道の動向を注視していく。

2 子育て世帯の支援

Q【山本議員】 義務教育時にかかる経費も子育て世代には大きな負担になっている。本町では、補助教材費への助成が全児童生徒に行われ、大変助かっているとの声が聞かれるが、他にも保護者負担が大きいとの声も聞かれる。補助教材費以外の助成を考

A【笹川町長】 現在、補助教材費の助成を行っているが、管内市町村と比較しても補助教材費の助成額については、本町は最も高額である。

学力向上対策の観点から、令和2年度予算にはさらに、児童生徒一人当たり1,000円を増額し、総額1,657千円を提案しており、一層、保護者の負担軽減につながるものと考えている。

補助教材費以外の助成については、受益者負担が適当なものと町から助成が必要なものを分析し、総合教育会議等において、子ども達のために何が必要なのか、検討していく。



1 少雪による
農業被害への対策

Q【白井議員】 今冬は暖冬であり、農業者は水田の水不足など営農に不安を抱いていると聞いている。また、土壌凍結のため、牧草や秋まき小麦など根切れが懸念される。少雪による農業被害へどのような対策を考えているのか？町長に伺う。

A【笹川町長】 全道的な暖冬少雪については、地球温暖化等の影響により、過去に例のない状況となっており、今後、どのような影響が起きるのか予想がつかず、農業においては、特に凍結による越冬作物の根切れや鹿の食害による被害で収量への影響が考えられ、春以降の生育、水不足への不安を抱いている。

農業被害への対策について、現状では、はっきりとした被害は確認できていない。

今後、気象状況の把握に努め、融雪期の営農技術対策や生育状況について、関係機関と情報を共有、連携を図り、春以降における生育状況において、被害が確認できた段階で、状況に応じた具体的な対策が必要と考えている。



2 新型コロナウイルス対策

Q【白井議員】 新型コロナウイルスの感染地域が拡大しており、教育現場において学校閉鎖等の対応がされている。本町で感染者が発生した場合の対策と遠別町立国保病院では対応マニュアルが作成されているのか？町長に伺う。

A【笹川町長】 国では、新型コロナウイルス感染症について、水際での対策を講じている。本町においても、対策本部を設置し、国で示した新型コロナウイルス感染症対策の基本方針に基づき対応をしている。

また、各種事業、イベント等の中止、国や道からの要請による小・中学校、幼児センターの休業を会議開催により決定し、実施したところである。

感染者が発生した場合は、感染者からの症状・経過、濃厚接触者、行動歴の聞き取り及び濃厚接触者の調査は道が行うので、町としての対応はないと道に確認している。

感染者の行動歴で、町の施設を頻りに利用していた場合は、利用状況にもよるが、施設の消毒作業などが考えられる。

遠別町立国保病院の対応マニュアルについては、厚生労働省からの通知及び感染対応マニュアルに基づき作成している。



1 防犯カメラの設置と児童生徒の防犯対策

Q【小森議員】 日本の各地域で子どもが犯罪に巻き込まれ重大な事件になっている。一般社会においても、凶悪な犯罪が各地で発生し、ニュースで報道されている。令和2年4月には道の駅「えんべつ富士見」が新しくオープン予定で準備を進めているところであり、施設内部や駐車場には防犯カメラや防犯対策が整備されると伺っている。他の公共施設等に防犯カメラの設置を考えているのか？児童・生徒の通学時の防犯対策は？

A【笹川町長】 防犯カメラの設置・運用を規定した法律が存在しないため、防犯カメラの管理方法は各自治体に委ねられ、自治体は条例・規則等で管理方法の規定と設置場所の公開など住民の理解を得ながら、慎重に進めなければならない。

公共施設等の管理は、一部施設を除き、夜間・休日に警備員を配置し

管理しており、過去に事故も発生していないことから、防犯カメラの設置は考えていない。しかし、管理・運営上、防犯対策の有効な手段の一つとして、公共施設等の新設、建替え時は、設置方法等を検討したい。

A【佐藤教育長】 児童生徒の通学時の防犯対策につきまして、現在、本町には地域防犯ネットワーク事業・駆け込み110番として、6ヶ所の防犯ステーションを設置している。事件・事故にあった人、見た人が連絡する場所、または、子ども達の避難所として、危険を感じたら、防犯ステーションに助けを求めることができる体制を整備している。

各学校においても、子ども達の通学路をすべて把握しており、小学校入学時には、全員に安全笛を配布している。

防犯対策については、遠別町児童生徒健全育成連絡協議会を中心に、情報交換や対策協議など、子ども達がいずれも安心・安全に通学できるよう学校・家庭・地域が一丸となった取り組みを行っており、引き続き、これらの活動に支援をしていきたい。



2 町長の政治姿勢

Q【小森議員】 令和2年10月には、2期8年の笹川町政の区切りの時となる。3期目に向かっての、立起について伺う。立起の考えなら、3期目に向かう、強い町政への思いも合わせて伺う。

A【笹川町長】 現在2期目の施策が展開途中でもあり、新年度は、病院のあり方検討委員会から答申を受けました「町立診療所建設基本設計」の着手や、第6期遠別町総合計画にあります、本町の教育環境の向上に向けた、中学校の建設も進めていきたいと考えている。

私を支えていただいている後援会やご支援をいただいている方々のご理解を得まして、3期目に向かって出馬をし、「孫・子に残せる遠別」の実現に向け、町政運営に全力を傾け、努力をしていく所存である。



令和2年度 遠別町各会計予算審査特別委員会

令和2年第1回議会定例会で一般会計外6件の予算審査を遠別町各会計予算審査特別委員会に付託し、3月9日・10日の2日間で審議が行われた。委員長には柏谷議員、副委員長には大石議員が選任され、提案のあったすべての予算は原案のとおり可決された。
主な質疑は次のとおり。

【一般会計】

― 総務費 ―

IP告知端末システムの更新



山下委員

Q 具体的にいつから始まって、交換した際、町民に説明会などの開催予定はあるのか？



橋本
総務課長

A 説明会はありません。具体的な交換時期は6月から9月までの4ヶ月間。事前調整で、各交換世帯に電話等でいつが良いか具体的な調整を4月に入ってからさせていただく。

若者移住交流体験



山本委員

Q この事業の概要は？

A 今まで各大学に職員がPRを兼ねて、学校訪問する形で行っていた。ただ行くのではなく、逆に大学生に遠別町に来てもらい、遠別町の魅力を知ってもらうため、20名程度の大学生、専門学生を遠別町に呼び、遠別町の若者と交流し、遠別町の情

報発信をしていきたい。

山本委員

Q 事業PRはどうやっていくのか？

橋本総務課長

A 業者の方で各大学にパンフレット、チラシを配布し、募集をかけたい。

タクシー助成券対象の拡大

山本委員

Q 重度障害者タクシー助成金について、現在1、2級で、タクシー券は、今年から6枚から10枚にするということだが、3級の人も該当させてほしいという声も多い。緩和して何とかならないのか？



室矢
福祉課長

A 今現在、1級、2級の方を該当させております。医療費助

成事業だとか、他の事業もあり、そういうものも道の状況に習って1級、2級まで該当させているような状況で行っているの、こちらも合わせて1級、2級でやらせていただきたい。



笹川町長

A この重度障害者タクシー助成金という形で、重度っていうのは何度までのことを言うのか、この辺で考えていかなければならないことだと思う。障がい者であれば、どなたでもという形が一番理想的だが、財政的な問題もある。国、道の補助金も当然入ってくると思うが、委員おっしゃることは十分理解できるが、その辺の捉え方が難しい。

片方で3級まで対応している、片方は2級という形は、バランス上、不公平感も出てくる。この後に向かって統一的に障が

い者の3級なら、3級っていう形のがすべて行政の中に取り込めるのであれば、理想だと思う。



― 農林水産業費 ―

新規就農者への支援



木村委員

Q 農業次世代人材投資事業と新規就農経営発展支援事業はどのような形でやるのか？



小森
経済課長

A 農業次世代人材投資事業は、新たに経営者として営農していく方に対して支援をしていく。これについては国の事業で、町としては間接補助になり、就農1年から5年間の部分について補助する。
新規就農者経営発展支援事業

は、農業次世代人材投資事業が終わり、6年目以降の方に対して5年間、経営にかかる機械借上料や、土地購入費等を補助していく。

有害鳥獣駆除と被害額



白井委員

Q 昨年の有害鳥獣駆除の実績は？また、農産物の被害額はどのくらいか？

小森経済課長

A 捕獲数は、30年度はエゾシカ532頭、アライグマ255頭、カラス等301羽、ヒグマ6頭、キツネ13頭。
被害額は、30年度はエゾシカ7,328千円、アライグマ813千円、キツネ45千円、カラス等218千円となっている。

山本委員

Q 毎年、鹿、熊の駆除数は前後すると思うが、予算が減額になっている。農家からの要請は

何件あるのか？

また、過去に罾をかける講習等行っていたか、これからも行う予定はあるのか？

小森経済課長

A 農家からの要請は、農協を通じて被害があつた等の情報が入る。そういった中で、猟友会が見廻りながら捕獲している。また、年一回一斉捕獲等を行っている。過去に、箱罾関係の講習等を行ってきた経緯はあり、今後も、農家をはじめ、要望があつた際に、留萌振興局等の協力を仰ぎ、検討したい。

― 商工費 ―

道の駅の備品活用

山下委員

Q ロボットペッパー利用料、備品購入費でデジタルサイネージが上げられているが、具体的にどのような使っているのか？

小森経済課長

A ロボットペッパーは、道の駅に町がPRのために1台設置し、来客者の方に案内等も含め活用する。

小中学校では3年程前からプログラム等を実習で行っているので、そういうプログラミングも活用しながらできればという考えでいる。

デジタルサイネージについては、液晶の掲示板で、道の駅の入口等にイベント内容、広告、町のPRを含め、その時々に応じた形で掲載する内容を変えていきたい。

― 消防費 ―

防災備蓄倉庫の備品



小森委員

Q 防災備蓄倉庫建設工事について、建物の大きさと段ボールベット等の他に何を保管するのか？

橋本総務課長

A 大きさは、6m×7mで42㎡、今の備蓄倉庫の約3倍の大きさ。令和2年度は、段ボールベット、マット30個を備蓄する予定。

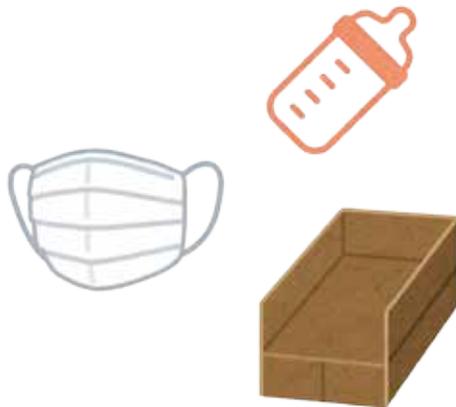
小森委員

Q 段ボールベット、マットと
いうことだが、スペース的にま
だ他の物が入ると思うが、今回
のコロナの関係もあり、どのよ
うな物をこれから備蓄するの
か？

橋本総務課長

A 段ボールベット、マットを
入れたので、それを仕切る間仕
切りの物も考えている。

コロナの関係で、将来的には、
マスクの備蓄も視野に入れてい
る。それと赤ちゃん用の液体ミ
ルクも、少しでも備蓄しておい
た方がよいのではないかという
考え方で、そういう物を少しず
つ増やしていきたい。



教育費

英語指導助手の配置

小森委員

Q 英語指導助手の配置だが、
今回予算組みが変わっている要
因は？



龍川
教育次長

A 今年度までは、民間の業者
に派遣していたのだが、次年
度は、本人が遠別町にずっとい
たいという希望もあり、会社と
協議した。契約では終了しても
2年間は雇用してはいけないこ
ととなっているが、本人の強い
希望があり、協議の結果、次年
度は紹介手数料を支払い、町が
直に雇用するという形をとって
いる。

一般会計総括

健康づくり

小森委員

Q 健康推進事業の検査検診に
ついて、町民が健康推進に13項
目における、検査検診が受診で
きるということだが、検査後の

不安解消のため少しでも早い検
査・検診結果を望んでいると思
うが、その対応策は？

室矢福祉課長

A がん検診の関係は、旭川の
がん検診センターでの検診と
なっているが、検査結果は役場
に一旦来るが、緊急を要して再
検査が必要なものについては早
めに来る。緊急、再検査の判断
は検査機関で判断するが、緊急
的なものについては、一般の部
分よりも早く来るので再検査を
早めに受けてもらうようにな
る。

笹川町長

A 健康づくりに関しては、福
祉課長の答弁のとおり。ここ1
年位の町民の皆さんの健康、病
気の状態を伺うと、普段の健康
診査、健康管理が仕事で忙しい
せいもあるかも知れないが、若
干欠けているかなという見方も
できないわけではない。

ドッグを受診しようと思っ
ても、仕事で忙しく受けられず、
結果的にドッグを受診したらす
でに手遅れに近いような状況

だったという話も聞く。

町として、町民の皆さんの健
康を守るためにドッグ等につい
てはほとんど無償のような形で
受診いただけるようにしている
ので有効に活用していただき、
自分の健康維持に努めていただ
きたい。病状が重い場合には、
直ちに連絡をくれるような対応
もしているとのことなので早く
受診をしていただくことが必要
だと思う。

ふるさと納税のPR

小森委員

Q まちづくり応援寄附金を増
やすため、周知するサイトの拡
大、返礼品が欠品することによ
る寄附者の減を防ぐため、返礼
品製造の外部委託も方法の一つ
と思うが、今後の課題は？



原
副町長

A 現在は、ふるさとチョイス
でPRし、応援寄附金を集めて
いる所であるが、他にヤフー等
色々あると思うので順次検討し

ていきたい。

返礼品については、限定のものやどのように数を増やしているか農業、漁業、商工業者と協議し、増やせるものは増やしていたいただき、違うサイトにも掲載し、返礼品をPRして寄附金を増額していきたい。遠別農業高等学校のものについては、授業の一環で行っているので、数量は増えないものと思っ

外部委託については、お菓子とかもち米を使用したものは、外部業者を使いながら商品開発を行っており、今後はもち米以外のものも使って何かできないか検討していきたい。

笹川町長

A 私が町長になってから返礼品を拾い上げ、多くの返礼品を出し、1億円を超える状況になってきたが、返礼品が頭打ちになりつつある。

地元で生産物、返礼品を加工することが難しい状況になっており、札幌、登別の業者に依頼し、加工してリストアップし、ふるさと納税をしていただこう

と努力している。

対外的にも代々木フェアや旭川食べマルシェ等、色々な場所でPRしているが、もつとPRの必要があると思う。遠別町のPRを私どもだけでなく、多くの皆さん方にしていただき、遠別に目を向けていただけるとありがたいと思っ



― 国保病院事業会計総括 ―

病院の体制整備

木村委員

Q 医師が二人から一人になってしまったことで、稚内や旭川の病院に行く患者さんが増えているのではないかと？診療所になっても医師を二人置くことができるのか？

笹川町長

A 医師不足は、遠別だけでな

く、どこの病院も大変な状況になつているというのはご理解をいただけると思う。

うちの病院は、院長一人で頑張ってくれている。それでは医師の体が続かないという事で、医療振興財団、旭川医大の方から、土、日、祝祭日等については医師を派遣していただいている。

地元の患者さんは、来ていただいた医師に診てもらおうので、かかりつけ医という形にはなつてこない。そういう状況の中で、患者さんも少しずつ、他の病院に流れて行っているのが実態だと思っ

医師の確保については、自治体病院開設者協議会等に出向き、お願いしており、遠別町のホームページ、道の地域医療振興財団のホームページの中にも遠別町立国保病院として医師を招聘したいという事で、色々な条件を付けながら掲載しているが、声が掛かってこない。

例えば、声が掛かってきても、顔は見えるが、実態としてどんな医師なのか理解できないような状況の中で話が進むことがあ

り、この医師ならという医師を掴むことができないのが今の状況である。

道の地域医療振興財団等に、引き続き医師確保に向けて頑張っ

診療所にしたら尚更の事、医師一人ということではなく、前におられた副院長が在宅診療もされており、きめ細かいサービスができるような診療所の体制も整えていかなければならないと、私の強い希望である。それに応えていただける医師をどう確保するかがまず前提になってくる。

地道に医師を探すべく、道内だけではなく、本州の方にも医師を探しに行かなければいけないのかなとも思っており、もう少し時間をいただければとお願



シリーズ

えんべつ町民 独占インタビュー

Vol.3

◎遠別町の住民をピックアップし、まちの印象や、行政、議会に対する思いなどをインタビューし、議会活動に役立てていきます。

遠別商工女性部にインタビュー

部長 穀 蔵 千恵子 さん

副部長 堀 江 秀 子 さん・坂 川 ゆき子 さん・後 藤 葉 子 さん



「えんべつコロッケ」

遠別商工会女性部は、現在 59 名の会員で構成され、山菜祭りでの山菜料理の提供、新入学 1 年生に交通安全愛の鈴の寄贈、各種イベントへの協力など、地域のため様々な活動をされています。

特に、イベント等での出店では、町内だけでなく、旭川市、東京都などで「えんべつコロッケ」の販売を行い、遠別町の知名度アップに多大な貢献をされています。

「えんべつコロッケ」は、平成 24 年に遠別商工会主催の B 級グルメコンテストで、多数の応募の中からグランプリに輝き、遠別町の新たな特産品として期待されました。しかし、コストをはじめ、様々な要因により町内では商品化に取り組む企業がない状態がありました。このままでは新しい特産品としてのアイデアが埋もれてしまうと、平成 25 年に商工女性部で商品化への取り組みが始められました。

当初は、食感やレシピの作成に苦労し、最初は芋を炊いてみましたが、べちゃべちゃ感が残ってしまい、試行錯誤しながら、結局「蒸したほうがいいね」となり、今のホコホコとした食感となり、平成 27 年にえんべつコロッケが完成しました。

平成 29 年 5 月に札幌ドームで開催された「なまらうまいっしょグランプリ」に参加した時には、売れすぎてコロッケ作りが大変でしたが、グランプリ 2 位（驚き!!）。昨年、茨木県で開催された全国コロッケフェスティバルでは、38 団体参加者のほとんどが大手企業で機械製造の中で、私たちはひたすら手作りで、堂々 3 位の栄誉、「人生の中で大きな感動の一幕でした。」今後は若い人達に受け継いでほしいと願っています。また、茨木県や東京都代々木公園のイベントでは、東京遠別会の皆様より、大きなお力添えがあり、感謝の気持ちでいっぱいです。と話されていました。

令和 2 年 10 月には、新潟県で開催される全国コロッケフェスティバル・グランプリ大会に参加される予定との事で、今後、益々のご活躍を期待します。

議会を傍聴してみませんか

次の定例会は **6月中旬** の開催予定です。

【お問い合わせ】
議会事務局
電話 7-2147 (直通)
メール gikai@town.embetsu.hokkaido.jp

詳しくはテレビ電話でご確認ください。



議員出席状況

令和2年2月1日～令和2年4月30日

区分 議員名	定例会・臨時会						常任委員会等				特別委員会			合計			出席率 (%) ⑥/⑤								
	開催 日 数 ①	出席内容			欠席内容			総務 産業	文教 厚生	議 会 運 営	全 員 協 議 会	議 会 報 発 行	決 算 審 査	予 算 審 査	開 催 日 数 合 計 ①+ ③ ⑤	出 席 日 数 合 計 ②+ ④ ⑥		欠 席 日 数 合 計							
		全 日 出 席	遅 刻	早 退	出 席 日 数 計 ②	慶 弔	病 欠												そ の 他	出席内容			欠席内容		
																				全 日 出 席	遅 刻	早 退	出 席 計 ④	慶 弔	病 欠
西畑 広男	3	3			3							5	5			5			8	8		100.0%			
小森 嘉孝	3	3			3							8	8			8			11	11		100.0%			
白井 金治	3	3			3							7	7			7			10	10		100.0%			
柏谷 美春	3	3			3							5	5			5			8	8		100.0%			
木村 秀雄	3	3			3							4	4			4			7	7		100.0%			
千葉 光悦	3					3						4	2			2	2		7	2	5	28.6%			
大石 幸夫	3	3			3							4	4			4			7	7		100.0%			
山下 悟	3	3			3							7	7			7			10	10		100.0%			
山本 仁美	3	3			3							5	5			5			8	8		100.0%			

あしがき (小森委員)

世界中の脅威、新型コロナウイルス、日本各地の経済がどうなるのか？ 農業者も春先の播種期を迎えて、気が重い。

私たち農業者は、農畜産物が安定価格で販売されることを強く望んでいる。改めて食料の大切さを考え、安心安全な農畜産物生産に今までの経験をもとに努力を惜しまない。一分一秒でも早く、世界中の新型コロナウイルス感染が終息することを願っている。

議会報発行特別委員会

委員長 小森 嘉孝
副委員長 山下 悟
委員 白井 金治

タイトル写真



6ページのタイトル写真は、3月26日、商工女性部様にインタビューに伺った際に撮影いたしました。